

## 令和2年度 第1回鶴岡市総合戦略策定推進会議（書面開催）

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面による意見聴取を行うもの。

○意見書提出期限：令和2年7月24日（金）

○委員：別紙のとおり

○内容：第1期鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の最終評価検証について

以下、委員意見の要旨

### ■第1期総合戦略の最終評価検証に対する意見

- ・総合戦略全般について丁寧かつ客観的に評価・検証されていることに敬意を表する。
- ・KPI 達成状況は約5割にとどまる結果となったが、KPI 未達成の施策の多くが目標値と大きくかけ離れる結果とはなっておらず、全国的な人口減少傾向に歯止めがかからない状況の中で、移住定住施策による転入者数の増加傾向が確認できることなど、総合戦略の成果がうかがえる。
- ・「鶴岡サイエンスパークの企業等で新たに雇用される又は就業する人数」の増加、「食関連産業分野において新たに法人設立の届出があった件数」や「企業間連携等による新製品・新サービス開発を行う新規事例」の増加、「グリーンツーリズム関連施設利用者数」の増加、「移住相談件数」及び「移住者への住宅支援件数」の増加などが、第1期終了段階において効果が現れた施策として評価でき、第2期への引継ぎ、発展により更に他施策との相乗効果が生まれることが期待される。
- ・KPI のうち未達成の数値目標が半数以上にのぼり、特に人口減少率や合計特殊出生率など人口減少に直接係る数値は良くなるどころか悪化する結果となった。
- ・既に鶴岡市内に居住している児童・生徒、若年世代、子育て世代を対象とした施策の効果が確認できないことが課題として抽出できる
- ・全体的に KPI の数値目標は控え目であり、施策に対する強い意欲や確固たる信念・意識がなかなか伝わってこない。KPI はもっと意欲的、挑戦的で高い目標であっても良いと考える。

### ■第2期総合戦略における各種事業に生かすべきこと・期待

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により人々の価値観や社会システムが大きく変わろうとしている中で、これらの変化をどのように分析し、施策の評価・見直しを展開していくかという方針を示すことも総合戦略の新たな役割ではないか。
- ・コロナ禍で経済が疲弊し命を救うセーフティーネットは当然だが、地域の子供たちを育てる施策につながる工夫やアイデアはないものか。
- ・地域経済を牽引するのは地域の人材であり、伝統や文化を継承するのも地域の人々。100年後もこの地域が存在するために優先させる施策を練るためのビジョンを描けないもの

か。

- ・鶴岡市が「SDGs 未来都市」に選定されたことを契機に、より良い総合戦略となるよう期待する。
- ・人口減少を緩和する対策だけでなく、人口減少を前提にした人口減少時にしかできない戦略をたてるべき。今回の評価検証結果をもとに、第2期総合戦略を再検討してほしい。
- ・長年、地域で暮らしている住民の生活環境に対する満足度や地域理解の向上は、移住者等の新住民のニーズも満たすことにもつながるため、平素の教育、福祉、地域活性化等の施策と「総合戦略」との連動性を高めることが第2期の課題と考える。
- ・現在取り組んでいる鶴岡市の具体的プロセスは今後も継続していくことが重要と考える。
- ・庄内の高速交通網（高速道路・新幹線）の整備、庄内空港の滑走路延長及び羽田5便化（コロナ以前の状態）等については、鶴岡市を含む庄内地域の市町が連携のもと戦略を明確にし、県に向けて発言していくことが重要である。
- ・観光施策をはじめ様々な事柄において地域間の処遇に格差が生じており、改善への継続的な取り組みをお願いしたい。
- ・慶應先端研等への関心は毎年高くなっており視察要請も増加の一途にあることから、これらをパッケージ化して地域外からの誘客に活用すべき。実際の運用にあたってはDEGAM 鶴岡ツーリズムビューロー等を活用したらどうか。
- ・医師不足を解決する具体的な手段として、現役医療従事者の子弟教育への助成や、医師会メンバーによる出身大学の医学部等に対する医師確保活動等を、今まで以上に積極展開する必要がある。
- ・事業については、市役所職員だけで取り組むものではなく、多くの市民を巻き込んでいくことが重要なポイントである。

# 鶴岡市総合戦略策定推進会議委員名簿

令和2年5月1日現在

No.	役職名等	氏名	備考
<b>1 産業関係</b>			
1	鶴岡市農業協同組合 代表理事組合長	佐藤 茂一	
2	庄内たがわ農業協同組合 代表理事組合長	黒井 徳夫	
3	鶴岡商工会議所 会頭	加藤 捷男	
4	出羽商工会 会長	上野 隆一	
5	株式会社まちづくり鶴岡 代表取締役社長	木戸 祐	
<b>2 行政機関</b>			
6	鶴岡公共職業安定所 所長	菊地 喜好	
<b>3 教育機関</b>			
7	山形大学農学部 教授	林田 光祐	
8	東北公益文科大学 教授	武田 真理子	
9	鶴岡工業高等専門学校 学校長	高橋 幸司	
<b>4 金融機関</b>			
10	株式会社荘内銀行 理事	田村 優	
11	株式会社山形銀行 鶴岡支店長	安部 幸裕	
12	株式会社きらやか銀行 鶴岡中央支店長	今田 安彦	
13	鶴岡信用金庫 専務理事	高城 傑	
<b>5 労働団体</b>			
14	連合鶴岡田川地域協議会 事務局長	渋谷 広之	
<b>6 報道機関</b>			
15	株式会社山形新聞社 編集局次長兼報道部長	峯田 益宏	
16	株式会社荘内日報社 代表取締役社長	橋本 政之	